

利上げ環境で注目の銀行株

【メリット】利ザヤ拡大による収益改善

- 利上げは通常、銀行が貸出金利と預金金利の「**ネット金利収入（利ザヤ）**」を広げるチャンスとなる
- 特にインフレ率が予想を上回る形で上昇した際には、銀行株は他の業種に比べて相対的に良好なパフォーマンスを示す傾向がある
- 金利の上昇に対して預金金利がゆっくり上がることが多いため、利益幅が拡大するため

【デメリット】保有債券で評価損を招く可能性

- 金利の急上昇や長期化は貸出需要を抑制し、既存の国債や社債など**債券型資産の評価損を招く可能性**がある
- 特に地方銀行（第二地銀含む）は資本がメガバンクよりも小さいことから、こうしたショックに対する懸念は無視できない（米シリコンバレーバンクなど）
- 仁義なき預金獲得競争**の末、体力が乏しい地銀は体力がある地銀に吸収される

2025年9月以降の地銀再編の動き

25年12月、**SBI地銀連合**から福岡の**筑邦銀行**が離脱（出資比率引き上げ要請を拒否）
SBI新生銀行（8303）が再上場

26年1月、長野地盤の**八十二銀行（8359）**と**長野銀行**が統合し**八十二長野銀行**

26年5月、福井地盤の**福井銀行（8362）**と**福邦銀行**が統合し**福井銀行**誕生へ

27年1月、山形地盤の**荘内銀行**と秋田地盤の**北都銀行**が統合し**フィデア銀行**誕生へ
（既に**フィデアHD（8713）**上場済）

27年4月、新潟地盤とする**第四北越FG（7327）**と**群馬銀行（8334）**が統合し**群馬新潟FG**誕生へ

27年4月、**千葉銀行（8331）**と**千葉興業銀行（8337）**が統合し、**ちばFG**誕生へ

28年4月、静岡地盤の**しずおかFG（5831）**と愛知地盤の**名古屋銀（8522）**が統合へ

政府も地銀をバックアップ

【地銀が抱える問題点】

① 人口減少に伴う預金流出

- 東北、四国、中国、九州などの人口減少が目立つ
- 財務基盤の弱い地銀は地方創生のボトルネックになる

② コスト面などから人材確保が難しい

- 新卒が東京や大阪に集中
- マネロン担当やフィンテックなど専門性が高い人材確保が難しい

③ 地銀と第二地銀（昔の相互銀行）合わせて98行（25年3月時点）

- 3行（福島、山形、岩手、富山、東京、沖縄）、4行（静岡）、5行（福岡）

【政府もバックアップ】

① 投資銀行機能の強化や他行・非銀行との連携を促し、M&A支援として最大30億円の補助

② 20年、菅首相は「地方の銀行は将来的に数が多すぎるのではないか、再編も一つの選択肢」

- 3割を占める独立経営の地銀が再編の軸になる
- 県内統合型、広域連合型、非銀行型**の3パターンが再編の型式となる
- ありあけキャピタル**が株主（**あいちFG、滋賀、池田泉州HD、百五、スルガ、大垣共立**）

【Appendix】2025年の地銀再編の動き

- 1月、青森銀行とみちのく銀行が合併しプロクレアホールディングス（7384）（**県内統合型**）、
愛知銀行と中京銀行が合併し、あいちフィナンシャルグループ（7389）（**県内統合型**）
- 3月、しずおかフィナンシャルグループ（5381）傘下の静岡銀行と、山梨中央銀行（8360）、
長野地盤の八十二銀行（8359）の3行が包括的な業務提携を締結（**広域連合**）
- 4月、新潟地盤とする**第四北越フィナンシャルグループ（7327）**が、群馬銀行（8334）と
2027年をターゲットとした経営統合の基本合意書を締結（**広域連合**）
- 7月、**千葉銀行（8331）と千葉興業銀行（8337）**が経営統合と報道（**県内統合型**）
- 8月、「地銀再生プロジェクト」を進める**SBIホールディングス（8473）**が、岩手地盤の
東北銀行（8349）との資本・業務委託契約を締結（**非銀行型**）

2019年の**島根銀行（7150）**を皮切りに、**福島銀行（8562）**、福岡地盤の**筑邦銀行**、静岡地盤の**清水銀行（8364）**、群馬地盤の**東和銀行（8558）**、**じもとホールディングス（7161）**傘下の**きらやか銀行**と**仙台銀行**、新潟地盤の**大光銀行（8537）**、茨城地盤の**筑波銀行（8338）**を経て、地銀連合の数は10行